

平成16年3月期 第3四半期業績の概況(連結・個別)及び業績予想の修正 並びに配当予想の修正に関するお知らせ

平成16年2月25日

上場会社名 常磐興産株式会社 (コード番号 9675 東証第1部)
(URL <http://www.joban-kosan.com>)
代表者 役職名 代表取締役社長 齋藤 一彦
問合せ先責任者 役職名 取締役管理本部長 秋田 龍生 TEL: 03-3663-3411

1. 四半期業績の概要の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有
四半期における売上高の計上基準として、工事進行基準を採用していない点が、決算期の売上計上基準と異なっております。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有(連結除外1社)

2. 平成16年3月期第3四半期業績の概要(平成15年4月1日～平成15年12月31日)

(1)売上高

(注)百万円未満を切り捨てて表示しております。

	連 結		個 別	
	百万円	%	百万円	%
平成16年3月期第3四半期	32,068		17,104	
平成15年3月期第3四半期				
(参考) 平成15年3月期	47,836		28,185	

(注) 1. 売上高は、当該四半期までの累計値であります。

2. なお、当期より四半期業績の開示をしておりますので、前年同四半期の実績及び増減率については記載しておりません。

3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

[売上高に関する補足説明]

当第3四半期までの我が国経済は、景況感の改善や設備投資の増加等緩やかな景気回復の兆しが見られましたものの、雇用環境・個人消費は低迷を続けるなど依然としてデフレ基調から脱却できない厳しい状況下で推移いたしました。

各事業の状況は以下のとおりです。

観光関連事業は主力のスパリゾートハワイアンズにおいては、幅広い客層に向けたイベントの開催、地元企業とのタイアップやインターネットによる企画商品等が奏功するとともに、冷夏による屋内レジャー施設に人気集中したことにより、9月にはオープン以来最高の利用者数を記録するなど前年に比較して伸びているものの、旅行需要の底這い状況等を反映して予想した伸びを示せぬまま推移いたしました。

燃料商事事業を中心とする卸売業及び不動産事業に関しましては、それぞれ石油の電力会社向け増販、販売用不動産の売却促進等によりほぼ堅調に推移いたしております。

その他事業につきましては、建設・土木事業において引続き公共投資が抑制されていることに伴

い売上高は減少いたしました。また製造関連事業において包装部材関連が個人消費の低迷等の影響を受けたものの、鉄鋼機械関連が市場の開拓等積極的営業展開を推進したことにより、全体として順調に推移しております。

この結果、当社グループの売上高は、320億68百万円となり、概ね当初業績予想どおりで推移しております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

当社は、平成4年4月以降賃借する札幌所在の建物に関し、所有者である八重洲企業株式会社に対して平成11年賃料減額請求訴訟を提起し、また同社より当社に対して同年建物明渡し等請求訴訟が提起されました。和解協議を経て裁判所より強い和解勧告がなされ、平成15年12月25日和解が成立しました。

和解内容は、当社が保証金及び保証金利息のそれぞれ一部と敷金を放棄し、八重洲企業(株)は鑑定結果に基づく賃料減額に応じ、その他の請求を放棄する、というものであります。

和解に伴う放棄額等については、平成15年11月21日および同年11月28日開示の決算短信業績予想において5億45百万円を特別損失に計上しており、当期業績への影響はありません。

3. 平成16年3月期の業績予想の修正

平成15年11月21日(個別)及び平成15年11月28日(連結)の中間決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

(1) 平成16年3月期通期(連結)業績予想数値の修正(平成15年4月1日～平成16年3月31日)
[連結業績予想] (単位:百万円,%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	45,660	1,600	900
今回修正予想(B)	46,480	2,410	1,000
増減額(B)-(A)	820	810	100
増減率	1.8	50.6	11.1
前期(平成15年3月期)実績	47,836	2,098	796

(2) 平成16年3月期通期(個別)業績予想数値の修正(平成15年4月1日～平成16年3月31日)
[個別業績予想] (単位:百万円,%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	23,140	1,080	430
今回修正予想(B)	24,440	1,410	340
増減額(B)-(A)	1,300	330	90
増減率	5.6	30.6	20.9
前期(平成15年3月期)実績	28,185	1,125	449

[業績予想に関する定性的情報等]

連結・個別ともに売上高並びに経常利益が燃料商事事業部門における電力向け石炭の増販や開発事業部門での販売用不動産の売却促進等により増加の見込となりました。

一方、当期純利益につきましては、当社単体においてグループ会社経営の健全化を目的として、依然低迷する地方経済下にあるグループ各社に対する債務保証損失引当金として特別損失約350百万円を計上することとし、前回発表の業績予想を90百万円下回り340百万円となる見通しとなりました。

以上のことから上記のとおり業績予想を修正させていただきます。

業績の予想については、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値が異なる場合があります。

4. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

(単位:円)

	中間期	期末	通期
前回発表予想	0.00	3.00	3.00
今回修正予想	0.00	2.00	2.00
前期(平成15年3月期)実績	0.00	2.00	2.00

(2) 修正理由

景気が回復軌道に乗る様相を示しているものの、業績予想の修正において記述しましたように、依然グループ会社の地盤である地方経済は低迷しております。こうしたことから、グループ会社に対する債務保証損失引当金として特別損失を計上することで、グループ経営基盤の安定化を図ることがひいては安定的配当に資すると判断し、誠に遺憾ながら平成16年3月期の期末配当予想を3.00円から2.00円に修正するものです。

以上